

第1回国際コスタ・ブラヴァ人形フェスティバル (スペイン)
in-dolls

2012 年 8 月 9 日～ 12 日
Exhibition Pavilion of St. Antoni de Calonge



今年 8 月、スペインのカタルーニャの人気リゾート地、地中海に面したコスタ・ブラヴァで、初めて本格的な国際人形展「in-dolls」が開催されます。このたび、常にクオリティの高い展示を海外で展開している実績を評価され、特別展示枠に、チーム・コヤーラが参加することになり、取り組みの準備を進めております。

出品は、秋山まほこ、松田珠江、長谷川裕子、高橋操、長岡哲生、天田わこ、西村 FELIZ (敬称略) ほかを予定。現地には T. コヤーラを代表して西村 FELIZ が赴く予定です。

この展示や、他に今後の海外展示出品にご関心のある方は、チーム・コヤーラまでお問い合わせ下さい。

写真右：ブリジット・デュヴァル

(フランス)

大人気を誇ったアンヌ・ミトラニに人形制作のきっかけを与えた作家



●出品希望者受付

10 月ロシア「Art of the Dolls」のご出品に関心のある方は、事務局までお問い合わせ下さい。

本年もチーム・コヤーラに展示枠が用意されております。作品のみ、または現地参加など、個別にご相談に応じます。(ご出品にあたっては、作品審査をさせていただきます。)

●通信発行時期変更

「コヤーラ通信」の発行時期を変更させていただきます。

次号より、ひと月遅れで、10 月、1 月、4 月、7 月を発行月とさせていただきます。次号は 10 月 1 日発行を予定しております。

9 月～ 10 月の展示予定で DM 同封を予定されていた方は、事務局までご相談下さい。

ドールワールドフェスティバル 2012

開催期日

・7 月 14 日 (土)

12 時～ 17 時

※初日は整理券で

11 時 30 分より入場

・7 月 15 日 (日)

10 時～ 16 時

・会場

東京都立産業貿易センター

浜松町館 3 階

東京都港区海岸 1-7-8

TEL 03-3434-4242 (代表)

入場無料



アンティークドール、レプリカ、創作人形、テディベア、小物、材料などすべての人形に関する作者・業者が出品 ※チーム・コヤーラも出展します！

・お問い合わせ先 ドールワールド実行委員会

〒 169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-11-8-5F

TEL/FAX 03-6679-1486

http://www32.ocn.ne.jp/~japandollworld/

email mikuni-bd@nifty.com

『edge to edge』
通販ご案内

羽関 チエコ が、人形に対する最近の思いを綴った『edge to edge』。1 号を発行しました。限定 200 部で不定期発行。



A5 判オールカラー 32 頁。1000 円。(写真は表と裏の表紙)

半分は、世界創作人形展の出品者リストです。

ご購入希望の方は 1140 円 (140 円は送料。切手でも可) を現金書留で、お届け先の住所・お名前をお書きのうえ、下記までお送り下さい。

189-0003 東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office

コヤーラ・クラブ入会条件

入会金なし 年会費：2000 円 (更新時に 2 年分一括払いの方は 3900 円となります。) 年 4 回 (1・4・7・10 月) のチーム・コヤーラのニュースレターと DM 便が届きます。

お申し込み方法

年会費 2000 円を以下の方法でご送金ください。

【郵便振替】 通信欄に「コヤーラ入会」とお書きください。

送金先 「口座番号」 00140-7-358370 「口座名」 チーム・コヤーラ

※ご入金を確認できたらチーム・コヤーラよりハガキで受領証と会員証を兼ねたお知らせをお送りし、次の号から「コヤーラ通信」をお送りします。更新時には、有効期限内の最後の号を発行するときに、更新のお知らせを同封いたします。

DM 同封希望の方 (発行月から 3 ヶ月の間に展覧会を予定されている方)

事前に枚数などお問い合わせの上お申し込みください。同封 DM は発行月の前月 20 日にチーム・コヤーラ必着でお送りください。
同封料金 コヤーラ・クラブ会員：2000 円 一般 (非会員)：3000 円

紙上展応募の方

会員の方の人形の自作品の写真を受け付けております。
11 号×切 2012 年 9 月 10 日 (必着)
以下を下記まで、郵送かメールでお送りください。

作品写真 2~3 点 (全体・アップ・裸形) サイズ：ハガキ大。
「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。
※何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人 1 点になります。
※応募作品はウェブ上で公開されることもあります。(講評は紙面のみ掲載)
※応募書類は返却いたしません。

個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤーラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤーラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤーラの趣旨に沿って DM クラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤーラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

各お申し込み・連絡先

チーム・コヤーラ
東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office 内
TEL 042-395-7547 (担当 ハゼキ)
FAX 042-395-7975
URL http://www.ab.auone-net.jp/~koyaala/
Email team_koyaala@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ (HAZEKI office)

©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本誌記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。



Jun. 1
2012



「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤーラがコヤーラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年 4 回発行 発行日 (予定) 4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、1 月 1 日

来号より、発行月が変わります！ 次号は 10 月 1 日発行です。

9 月開催！ チーム・コヤーラ主催

創作人形公募展 審査員

四谷シモン氏 インタビュー (聞き手 羽関チエコ)

解放される。自由。
それがテーマでしょうね。

最近、人形公募展が続いています。これだけの公募展があるので、チーム・コヤーラでは、応募者の方に思い切ったチャレンジをして頂きたいと思っています。シモンさんは今までずっと人形をご覧になってきて、今の創作人形界にどのような印象を持たれてますか？

「うーん。突破口がなくてぐるぐるまわり、という感じがしますね。そういうパターンの世界にいるから仕方がないのかな。それは悪いことではないとも思うけど、しかし、刺激がなさすぎる。だから、『え？ これ、人形っていっちゃって言っているの』というようなものを見てみたい」

世界創作人形展にあったヴィタリスの作品が気に入られているようですが？

「そうそう！ 遊技性がたぶんにあらわれている。人形というのはこういうふうにしなければならぬんじゃないか、ということにとらわれていない表現なんですね。なにか子供が落書きを描いているような表現。それは大変難しいことですけどもね。」

人形は真面目な人が多いです。

「技巧を磨いて、神経細やかで。そこまでこだわらなくていいじゃないの、ということまでどんどん入ってくるから、固い！ 僕にはつらそうに見えます。勝手なりようで、自分にも言えることですが。」

特にコンテストとなると…

「構えるよね。そこですよ。人様の目に触れるということで、気取りや優越感もあるだろうけど、お人形さんは本来、かわいくて、楽しくて、ちょっときれいで無邪気。そういうのって人形が一番表現していい部分じゃないかなあ。

こういうふうにいっちゃいけないかもしれないけど、もっとふざけて！ 自分で作っていて、苦笑しちゃうくらいに。これは、展覧会には出せない…とか考えないで、そういうものこそ、なにか

ある種の起爆剤になることがあります。」

同感です。

「日本人というのは、なぜか技巧に走っていく。そして必ずうまくなっちゃう。工芸としてはそれは良かったんだけど、それは、もう終わったと思います。もちろん、工芸としての人形はこれからも脈々とあるかもしれませんが、そうじゃなくて、なんというか、なにこれ！ って吹き出しちゃうくらいのもの。人の笑いを誘い出す作品があったら、それは素晴らしい！ 僕は自分の作るものは、その逆をやりたいというのはあるのだけど、若い人にそういうのを作ってもらいたいな。不器用でいいし、稚拙でいいし、仕上がりが馬鹿丁寧でなくていいと思うんですね。」

そういうふうにお考えになるのは、今、この時代だからこそ、ということでしょうか。「そう、いろいろな意味で、人は、来るところまで来ちゃった。息苦しくて、かわいそうですよ。せめてお人形さんくらいは、『ええっ？』というもので、解放する！」

創作人形はちょっと偉くなっちゃいましたね。

「人形は偉くなっちゃダメ。人形は、そういうものじゃない。子供が枕か座布団をねんねこにして、擬人化した。そんなもんなんです。でも、座布団を持ってきてくれとは言わないけれどね (笑)。そんな無邪気なものを感じさせるものが見たいです。球体関節だとか、そういうことに何もとらわれないで。」

巷では、シモンさんイコール球体関節人形だとか、逆に私は球体関節人形が嫌いと言われるみたいです。実際にはそんなこだわりはないのに、そう決めてかかる方は、そう思いたいのかな、と思います。

「人は枷をしたほうが楽だからね。何でもありますよ、というのは、逆に大変なんですね。」 (次ページに続く)



チーム・コヤーラ主催

創作人形公募展
応募作品募集中！ 〆切迫る！

6 月 30 日 (土) 応募書類必着

第 1 次審査 写真審査のみ

第 2 次審査 写真審査通過者による実作品審査

応募料 一般 8000 円 コヤーラクラブ会員 5000 円

※写真審査を通過しなかった方には、
応募料をお返しいたします！

応募要項は最終頁記載の「チーム・コヤーラ事務局」
担当羽関までお問い合わせ下さい。



TACHIKAWA YOSHIE 'doll on creation'

【審査】 ゲスト審査員に四谷シモン氏をむかえ、羽関チエコ、チーム・コヤーラ、各賞関係者で行います。

【賞】

1 チーム・コヤーラ賞 賞金 1 万円と賞状

2 Art of the Dolls 賞 賞金 1 万円と賞状

1 と 2 は、10 月にロシア・モスクワで開催される「ART OF THE DOLLS」に出品

3 ウラル人形作家協会賞 賞金 1 万円と賞状

3 はロシア・エカテリンブルグで開催される「DOLL FESTIVAL」に出品 (11 月予定)

4 コヤーラ・フェス賞 (会場の一般投票により、最終日に発表) 賞状

5 四谷シモン特別賞 賞状

※海外出展については、いずれも受賞者が出品に合意した場合

チーム・コヤーラ主催 「創作人形公募展」

9 月 11 日 (火) ～ 16 日 (日) 10:00 ～ 18:00 (最終日 16:00 まで)

NHK ふれあいギャラリー

東京都渋谷区神南 2-2-1 NHK 放送センター内

TEL: 03-3481-5614

(前ページより) それから、笑いを誘う人形というのを真に受けて、笑っている人形を出すことを考える方もいるかもしれませんが、そういうことではないですよ。

「そういうことではないです」

たぶん、作る自分を相対化して見る視線が必要だということだと思うのです。技術にはまったとしても、そのはまり込んでいる自分を離れて見る、その見方のスタンスによって、作品は変わりますね。

「さめてる、ということですね。うまいだけの人はほんとうに多いです。でも、そんなことじゃなくて、人形は、解放されたいんだものね。解放される、自由、それがテーマでしょうね。」

チーム・コヤーラのテーマと一緒にです。

「日本人の民族的な癖なんだろうけど 権威とか箱書きのお墨付きとか、そういう世界はいまだにあるけど、若い人は関係ないでしょ？そういうことに関しては変わってきていると思う。そういう変化のなかから起爆剤がでてくれば、と思う。」

展覧会を企画していても、今までのやり方では通用しなくなってきてます。買う人達は正直ですから、作り手との意識がズレ始めてます。だから、私たちは作品の芯のところで輝いていて、面白いと言わせるようなものを見つけて、評価していきたいと思っています。

●公募展 report

手作りペッカリー人形展

岡山県備前市に古代中南米文明の出土品を多く展示しているBIZEN 中南米美術館という美術館があります。

このたび、この美術館で「ペッカリー人形展」なる公募展が開催され、多くの作品が出品されました。

発起人である森下矢須之館長曰く「今回の催しは、三千年前のエクアドルからやって来た、人の心を癒し笑顔にする不思議なヘソイノシシ土偶をモデルにした人形公募展です。作品評価は入場者に募金投票をお願いし、募金は全て先の震災被災児童に贈ります。いずれの応募作品も驚くべき発想、素材、創造力。実に癒されます」とのこと。

事実、出品された作品はチーム・コヤーラでお馴染みのイフンケさんの作品をはじめ、左官の技術を活かして作られた作品など、従来の「人形」の枠にとらわれない自由な発想に満ちたものでした。

この公募展は今後も第2回、第3回と続け、日本を巡回していく予定。このような自由な発想による新たなペッカリーが次々に誕生していくことを、審査員として協力している自分も楽しみにしております。(西村 FELIZ)

「手作りペッカリー人形展」

4月28日(土)～6月24日(日)

BIZEN (備前) 中南米美術館

http://www.latinamerica.jp/

〒701-3204 岡山県備前市日生町

日生 241-10

TEL フリーダイヤル 0120-346-

287 (土・日・祝日は 0869-72-

0222)

優秀作品は、展示が終了してから

発表される。



「急激に作品を変化させるのは無理ですけど、とにかくこれは、全然違うカラー、いろんな方向性のある公募展ということですよ。」

ある意味でかなり難しいことを要求されているわけですよ。

「そう、だって他にないんだもの。なぞることができない。でも可能性は大ですよ。いろんな人がいるから。たぶん、面白くなってきましたよ。腕組んでうーんとなるような人形、じゃないようなものを望みます。何でもありですよ！」

「飛ぶ思い」ヴィタリス
——「これは、ずば抜けて、
『ない!』」四谷シモン

ヴィタリスの作品が出品される展覧会

「リメンバー (Remember)」

6月16日(土)～7月1日(日)

ビリケンギャラリー

http://www.billiken-shokai.

cojp/

参加作家：ヒロタサトミ、松田珠江、岡田美佳、くるはらきみ、ヴィタリス



これはペッカリーのオリジナル
BC3000年、エクアドルのチョレラ文化の土偶。
(BIZEN 中南米美術館蔵)



応募作品 (イフンケ)



応募作品



第3回世界創作人形展

レポート

2012年4月4日～4月10日

主催：ドルスバラード / 企画：HAZEKI office

協力：チーム・コヤーラ

3回目を迎える世界創作人形展は、日本人作家25名、海外作家19名の総勢44名による展示となりました。海外からはロシアをはじめとする6カ国が参加、関係者含め6名がこの展示のために来日しました。

参加作家にとっても刺激的な機会である本展では、各自が新作や会心の作を出品、その工夫や思いが見応えのある展示となっています。様々な方向性の展示を一言でレポートするのは難しいのですが、大きくまとめると今回は海外、主にロシアを中心に玩具的な要素がある作品が目立ったといえるでしょう。p.1の四谷シモン氏のインタビューにもあるように、表現や市場が停滞気味の創作人形界において、素朴で愛らしい、身近な存在としての人形のあり方を再認識させられるような思いがします。訪れる方々からも、異口同音に「素材や表現、こんなに自由にやって良かったんだ」という感想が聞かれました。特に、テディベアのヴィンテージ感をアレンジしたエレナ・スマガ(ロシア)、布をオリジナル素材に仕立てたミレツカヤ(ウクライナ)の象の人形や、リシナ(ロシア)の火星の動物シリーズなど他の作家作品ふくめ、洗練されたオリジナリティが各作家において確立されているのは、驚くべきことだと思います。そういう秀作が生み出される豊かなバックグラウンドが何なのかと、思わざるを得ません。それは、私たち日本人にも確かにあったもののように思うのです。

逆に、日本の創作人形が海外に影響を与えているのも事実です。オランダのフリプシやポボヴァ姉妹(ロシア)は、球体関節人形を出品しました。ポボヴァ姉妹は、量産製作を前提とした試作品を送ってきましたが、できたての試作品とは思えない完璧な構造とデザインで感服させられました。ポボヴァ姉妹やセトロヴァ(ロシア)には、新作への取り組みにいつも驚かされますが、アメリカに転居したセトロヴァの「カラード・チルドレン」も本人の写真とのコラボレーションが際立つ展示となりました。

国内外のベテラン作家たちも奮闘するなか、ナトゥラー(オーストリア)の久しぶりとなった新作は、問題作でした。自身の老母をモデルに、社会の介護問題を提起、作品タイトルを募集しました(「Their Happiness」に決定)。制作や表現は、作者の人生とともに歩み続けるものだと思います。アメリカのナヴァロは海外出品者のなかで、唯一毎回来日している常連。出品のたびに、その技術と表現が深くなっています。世界の文化、工芸の技術をリスペクトする彼女がトルソや人形に仕込んだ深い意味合いを味わうには、短い時間では難しいかもしれません。ナヴァロのように正攻法で工芸的な人形を目指す作品も、流行に流されずにしっかりと評価を獲得していったほしいと思いました。

なお、紙面の都合上、日本人作家の作品に言及できなかったこととお詫び申し上げます。(羽関チエコ)



アーリン・フィッシュ・ナヴァロ (アメリカ)



シルヴィア・ナトゥラー (オーストリア)



左 レナ&カツヤ・ボボヴァ (ロシア)
下 エレナ・スマガ (ロシア)
左下 エレナ・リシナ (ロシア)



アレクサンドラ・ミレツカヤ (ウクライナ)

